

第1節 新たなネットワークづくりの潮流のなかで

みんなが主役で楽しく学ぶ 郷土の歴史が、今、よみがえる

かねさは歴史の会

古い歴史をもち、随所に旧跡が点在する金沢区。この恵まれた郷土を知り、次代へと伝えていきたい——そんな人びとの願いが、ひとつの集いを誕生させた。かねさは歴史の会である。

会の発足は、昭和60年。きっかけとなったのは、金沢区市民課が昭和59年度に行った事業のひとつ、「金沢区テレビセミナー」。これは、自宅でのテレビ視聴を中心に、講義、意見交換、史跡見学などを折り込みながら「中世都市・鎌倉」について学習するという講座だった。この講座が終わる頃、受講者の中から「これからも、引き続き郷土の歴史を学んでいきたい」という声がかちあがり、そういう受講者たちが集まって、かねさは歴史の会が発足した。会の名称は、中世に金沢を「かねさは」と書きあらわしていたことに、ちなんだものである。

最初は10数名で始まったこの会も、「私も歴史を学びたい」という人がひとり、ふたりと集まってきた。現在では110名に。区内はもとより、他区や市外から来ている人もいる。年齢は、30代前半から74歳の男性までと幅広い。40

代、50代の主婦が多いのは、生涯学習グループとしては普通だが、男性の比率が4人にひとりと比較的高いことが特徴だ。年齢も、職業も多種多様な人びとが、「歴史」というテーマに取り組んでいる。

月4回の活動は、県立高校の社会科学教諭であり、テレビセミナーの講師でもあった石井喬先生を中心とした講義が2回。残りの2回は、講義のなかで出てきた場所を訪れ、実際に目で見

て確かめる「歴史散歩」を実施。この歴史散歩では、会員自身が下調べをし、パンフレットを集め、講師になって案内している。

「私たちの会は、すべての会員が主役です。自分たちが学びたいことを学び、行きたい所へ行き、話したいことを話す。最近新しく始まった俳句会も、会員のひとりが先生なんですよ。まさに、自分たちの手づくりの会、そんな感じですよ」。会長をつとめる斉田忠男さんは、こう語る。受け身ではなく、自らが参加し、創造する——これが、生涯学習の原点といえるのかもしれない。

かねさは歴史の会が、これまでに歴史散歩を行ったコースには、たとえば次のような所がある。

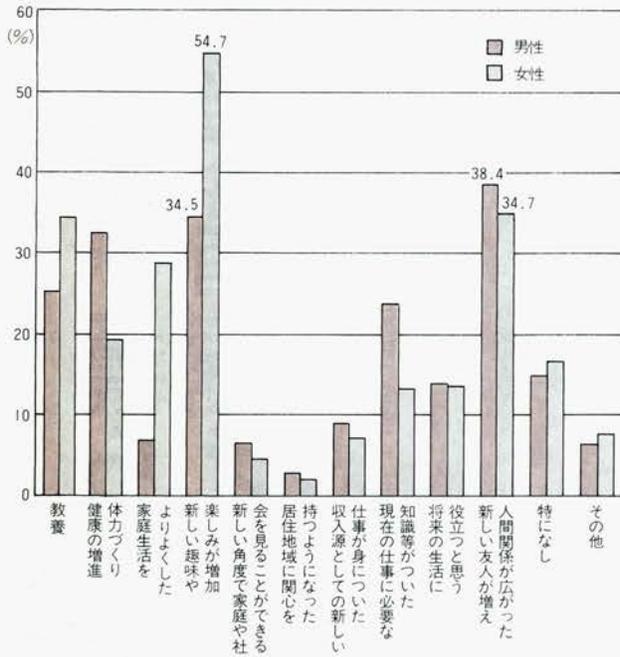
朝比奈切通しを越えて鎌倉の光触寺へ歴史散歩

金沢自然動物公園から大平山、鎌倉宮に至る「六国峠越え」、能見堂跡から東光寺、鼻欠地蔵などを巡る「金沢白山道を歩く」、小机城主の墓・雲松院から泉谷寺、小机城址、専念寺を訪ね歩く「小机城址・ばげの花咲く専念寺」。



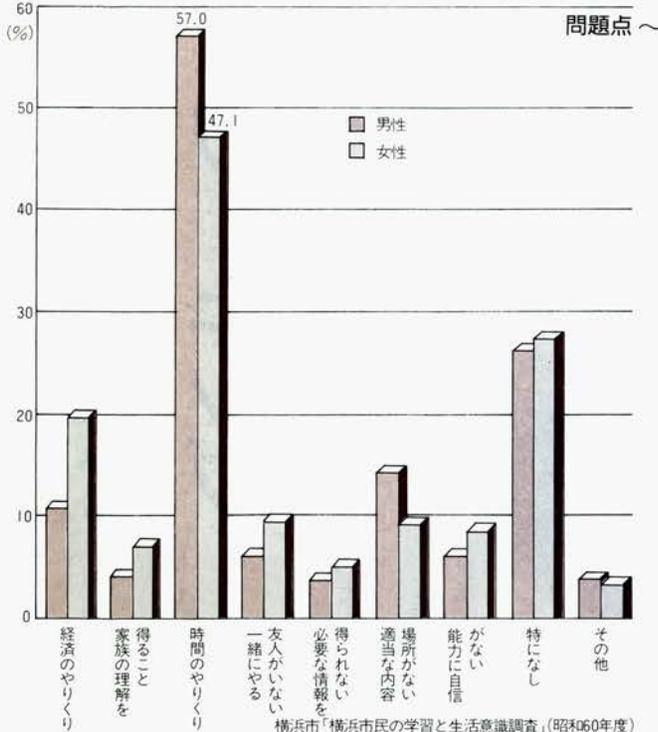
Network

■新しい趣味が増え人間関係もひろがった ～学習で得たもの～



横浜市「横浜市民の学習と生活意識調査」(昭和60年度)

■時間のやりくりがやはり大変～これから学習を行ううえで



横浜市「横浜市民の学習と生活意識調査」(昭和60年度)

一つ一つ史跡をじっくりと探索する歴史散歩には、毎回50名ほどの参加者がある。

歴史散歩の後には、もうひとつの楽しみが待っている。参加者同士の語りである。喫茶店でお茶を飲みながら、訪ねたばかりの史跡や道中のことを語り合う。「歴史散歩が楽しみです」という会員が多いというのもうなすける。

「この会では、仕事とか年齢を超えたふれあいがあります。歴史を通じてひとつにならざる言いますか……。すばらしいことだと思いますね。会員のなかには、地方からいらしたばかり

で、近所に知り合いの少ない方もいらっしやいます。この会で、どんなに交際範囲を広げてもえたらいいなと考えています」と、齊田さん。もつと、郷土の歴史を学びたい。そんなひとことから生まれたかねさは歴史の会も、発足から3年。当初は手さぐりで始めた活動も軌道に乗り、最近では文学や俳句の講義もスタートした。歴史散歩も金沢区から周辺へ、そして首都圏全体へと、活動の範囲はどんどん広がっている。

会の今後について、齊田さんはこう言う。

「これからどうしようとか、具体的なものはないです。勉強会を重ねながら、次は何をしようか、何をすべきか考えていきます。どんな活動がこれから始まるのか、私にも分かりません。だから、よけいに楽しみますね」

みんなが夢見ながら、しかし、だれひとりその先を知ることのできない未来。かねさは歴史の会も、今後の活動にかぎりない可能性を秘めていると言っただろう。